

編集後記

本冊子をお手に取っていただきありがとうございます。「博物館・美術館」と聞くと、芸術作品や歴史的な所蔵品を思い浮かべるかもしれません。しかし、実に多様な種類の施設があり、それらと文学部で学べる学問には強い結びつきがあります。皆様が持たれている興味は文学部と何らかの形で結びついています。「文学部には何があるのか」一度ご来館いただき、体験いただければ感じ取れることでしょう。この場をお借りし、制作にご協力いただいた教員・学生・その他関係者様に御礼申し上げます。

文学部案内冊子 2027 編集スタッフ一同

本冊子は、文学部・文学研究科教育促進支援機構の学生スタッフが中心となり、ときに文学部教員と協同し、冊子の企画・編集・原稿の集約・デザイン構成などを行い、作成されたものです。この冊子のテーマである「博物館・美術館（文博）」も、学生スタッフのアイデアから生まれました。

文学部は4学科15コースからなる「知の博物館・美術館」です。これらの15の展示室を巡ると様々な学問領域に出会うことができます。本冊子が「文博」のガイドブックとなり、皆様のご来館につながれば幸いです。

文学部案内冊子 2027 編集委員会編集委員長
川邊 光一

教員紹介



文学部案内



編集スタッフ

3年生
岡本 健太（けんてい〜）
川原 広（きやわ）
福住 彩果（あーちゃん）

2年生
住田 百々歌（ももか）
松本 陽也（はるちゃん）

1年生
宇口 凌平（ウコウ）
奥村 真衣（おくむー）
廣田 優子（ひろこ）
三保家 理湖（みほやん）

文博 ようこそ、文学部博物館へ 大阪公立大学文学部案内冊子 2027

企画 / 編集：大阪公立大学大学院文学研究科・文学部
文学部・文学研究科教育促進支援機構

発行：大阪公立大学大学院文学研究科・文学部
〒536-8525 大阪市城東区森之宮 2-1-132

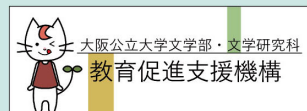
ホームページ：https://www.omu.ac.jp/lit/

発行日：2026年8月7日

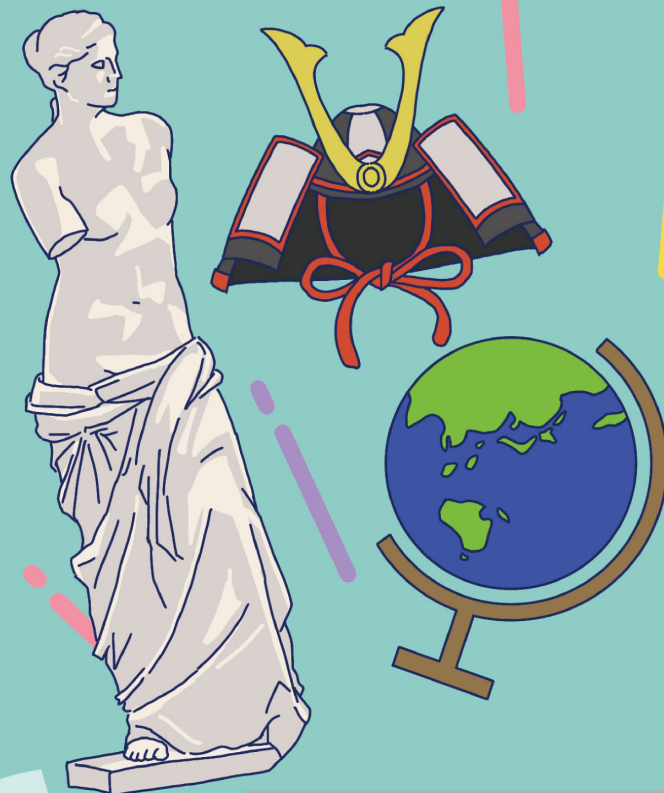
デザイン編集協力：（有）松本工房

印刷：（株）ケーエスアイ

※本冊子に掲載されている情報は2026年8月現在のものです。最新情報はホームページ等でご確認ください。

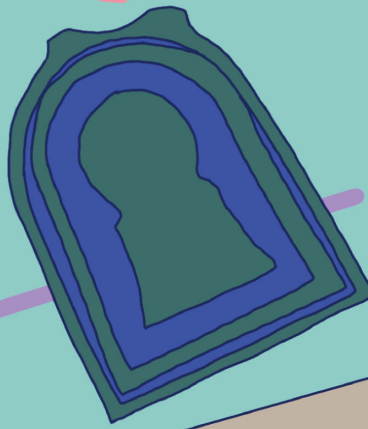
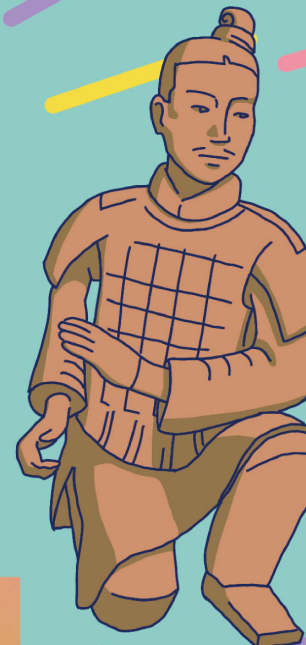
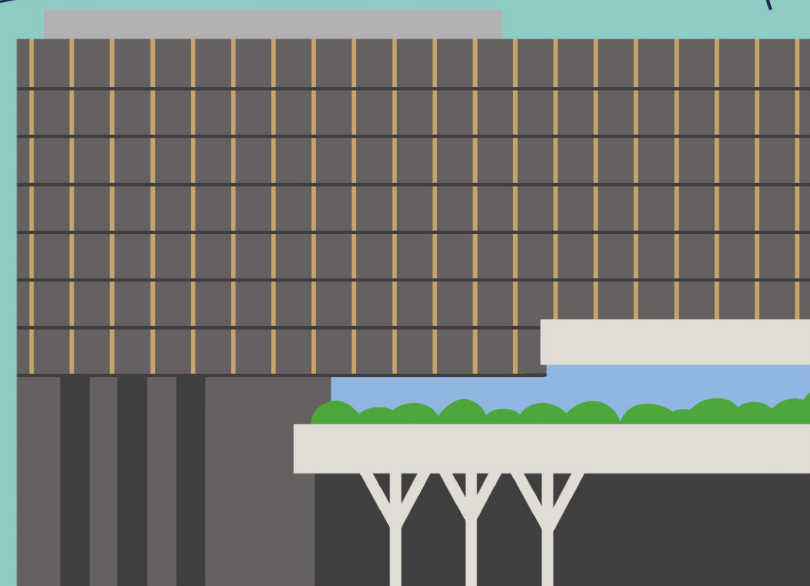


大阪公立大学文学部 案内冊子 2027



ようこそ、文学部博物館へ

文博



OMU
Osaka
Metropolitan
University



大阪公立大学
Osaka Metropolitan University

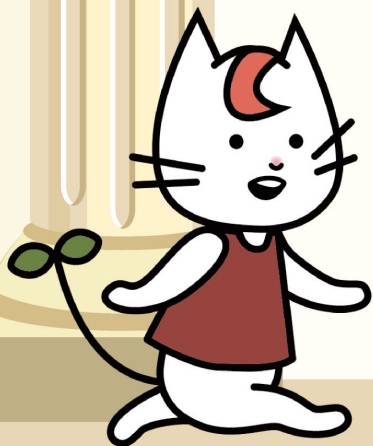


目次

CONTENTS

	学部長インタビュー	03
	学科・コース紹介	
	哲学歴史学科	
	哲学コース	04
	日本史コース	05
	世界史コース	06
	人間行動学科	
	社会学コース	07
	心理学コース	08
	教育学コース	09
	地理学コース	10
	言語文化学科	
	国語国文学コース	11
	中国語中国文学コース	12
	英米言語文化コース	13
	ドイツ語圏言語文化コース	14
	フランス語圏言語文化コース	15
	文化構想学科	
	表現文化コース	16
	アジア文化コース	17
	文化資源コース	18
	森之宮キャンパス特集 /	
	人文学学際研究センターについて	19
	受験体験記	20
	学校生活紹介	
	キャンパスライフ	21
	資格・留学・進路	22
	文学部・文学研究科教育促進支援機構について	23

文学部・文学研究科教育促進支援機構
公式マスコットキャラクター
りてらちゃん



ようこそ、
文学部の
世界へ。



Welcome!



学部長あいさつ

大阪公立大学文学部はどのような学部ですか？

大阪市立大学文学部を前身とし、文学部として独立してから数えても 70 年以上の歴史を有する学部です。伝統的な基礎学を大切にしつつ、近年は学際的・応用的な学問分野を担う文化構想学科を新設し、現在は 4 学科 15 コースを備えています。教育の最大の特徴は、教員と学生の距離が近い少人数教育にあります。書物の読解にとどまらず、生の一次資料の分析、社会の現場におけるフィールドワークなど、様々な体験を通じて、教員と学生がともに学び合う姿勢を大切にしています。

文学部が存在する意義はどこにありますか？

文学部では、いずれの分野においても、人間の営みを根源から問い、探究することを目的としています。機械的な分析や整理を AI が担う時代において、人文学の必要性はむしろ高まっていると言えるでしょう。人文学は、言葉・歴史・文化・思想などを通じて、人間存在の複雑さを読み解く学問です。効率だけでは測れない価値を問い続けるとともに、AI を使う側に求められる判断力や批判的思考力を養う点に、これからの時代における重要な役割があると思います。

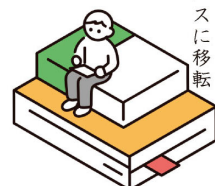
大阪公立大学文学部は今後どのように発展していきますか？

2025 年 9 月、文学部は森之宮キャンパスに移転しました。キャンパス移転は単なる場所の移動にとどまらず、大阪の都市部における「知の拠点」としての機能を強化し、社会との接点をいっそう深めながら教育研究の新たな可能性を切り開く重要な転換点です。附設の人文学学際研究センター（HIRC）の機能も強化し、森之宮キャンパスの特性を生かしつつ、人文学の知を社会の多様な現場と結びつけながら、教育研究の新たな展開を図っていきます。



大阪公大文学部 略年表

一九四九	大阪市立大学に法文学部文学科 創設 (十二専攻)
一九五三	法文学部を解体して文学部創設(十専攻)
一九五五	大学院 修士課程設置(六専攻)
一九五五	大学院 博士課程設置(七専攻)
一九五六	米軍に接收されていた杉本キャンパスに帰還
一九六八	学部 五学科十一専攻(三コース)に改組
一九七一	大学院を前期博士課程・後期博士課程に改組 (十二専攻)
一九九八	学部 三学科十五コースに改組
二〇〇一	大学院重点化により、正式名称が 「大阪市立大学大学院文学研究科・文学部」に
二〇〇二	文部科学省「21世紀COEプログラム」採択
二〇〇三	創設五〇周年を機に 「文学部・文学研究科教育促進支援機構」発足
二〇一〇	三学科十三コース二領域(学部) 四専攻(十四専修)に改編
二〇二〇	大学院四専攻十六専修、 学部四学科十五コース(二領域)に再編
二〇二二	大阪市立大学と大阪府立大学が統合し 大阪公立大学発足
二〇二五	大学院四専攻十七専修、 学部四学科十五コースに再編 杉本キャンパスから森之宮キャンパスに移転



世界や人間について根源的に考える力を養う

哲学コース Philosophy

先生に聞く！

哲学コースとは

私たちは世界や自然、人間や文化、宗教や道徳等について、大学に入る前にすでに多くを学びますが、こうして学んできた事実や知識に向き合う、自分の当たり前のものの見方・考え方を一度カッコにくくり、これらを原理から捉えなおす態度と方法を身につけること、これを本コースの学びは目指します。そのために、形而上学、倫理学、宗教学、美学をそれぞれ専門とする教員の「講義」科目を通じて重要な哲学者の思想を学び、「演習」科目の中で彼らが書いたテキストを直接読んで彼らとの対話を重ねながら、自ら考える態度を養い、レポートや発表や討議を通じて、自分が考えたことを他者も理解できるように表現する力をつけていきます。



高梨 友宏 教授
Professor TAKANASHI Tomohiro

教員紹介

高梨 友宏 たかなし ともひろ	教授	美学、西洋哲学史
佐金 武 さこん たけし	教授	分析哲学、現代形而上学
土屋 貴志 つちや たかし	准教授	倫理学 ※2026年度末退任予定
古荘 匡義 ふるそう ただよし	准教授	宗教哲学、日本宗教思想史



哲学コースの「博物館・美術館」

当博物館（美術館）には、形而上学、倫理学、宗教学、美学の各テーマに対応する分室があり、それぞれの分室に古代から現代に至る多様な作品が展示されています。できるだけ多くの作品を鑑賞するためのプロムナードが敷かれている一方、1つの作品の前にとどまってじっくり味わうためのベンチも据えられています。4つの分室を巡って当館をあとにした人には、見慣れた世界の風景が一変して見えるようになることでしょう。

と変更。大学入学後は、「フランス現代思想」に興味が集中していきました。

コースの魅力は

哲学は「そもそも～とは何か（どういうことか）」を問う営みだと思います。そんな学問を志しているためか、普段から抽象的、批判的な会話や議論をすることに抵抗のない学生が多いことが、このコースの魅力でしょう。



3年生
塩谷 太志 さん
SHIOTANI Taishi

卒業論文タイトル紹介

- ◆カント『実践理性批判』における幸福概念について —「幸福である」ことと「幸福に値する」こととの違い—
- ◆虚構と實在信念 —フィクションのパラドックスの検討—
- ◆ジェンダー・アイデンティティを考える —非二元的な性を生きる人を例に

史資料によって過去を知り“現在”を考える

日本史コース Japanese History

先生に聞く！

日本史コースとは

考古学・古代・中世・近世・近現代の教員が揃い、日本史のすべての時代について専門的に学ぶことができます。また、大阪を中心とした都市史研究にも力を入れています。学生たちには、古文書などの史料や考古学の遺物などから実際の歴史を明らかにする楽しさを知ってほしいと思っています。授業では講読・演習などゼミ形式の実践科目を重視し、卒業論文では各自の関心に基づいて時代やテーマを絞り込み、関連史料を読み解くことで、通説とは異なるオリジナルな歴史像を導きます。現在は学部生・大学院生それぞれ約30名ずつが所属し、古墳の発掘・測量調査や古文書調査、史跡や博物館などの現地見学にも積極的に取り組んでいます。



齊藤 紘子 准教授
Associate professor SAITO Hiroko

教員紹介

岸本 直文 きしもと なおふみ	教授	日本考古学
磐下 徹 いわした とおる	教授	日本古代史
仁木 宏 にき ひろし	教授	日本中世史
齊藤 紘子 さいとう ひろこ	准教授	日本近世史
佐賀 朝 さが あした	教授	日本近現代史



日本史コースの「博物館・美術館」

図書館や資料館とともに“なくてはならない施設”の1つです。授業や課外で展示を観に行く機会も頻繁にあります。貴重な遺物や古文書が保存・展示され、最新の研究成果もわかりやすく紹介されていて、過去と現在、研究者や市民を相互につないでいる「架け橋」のような場所です。本学の日本史コース卒業生には、大学院に進学後、歴史系博物館に学芸員として就職し、活躍している先輩もたくさんいます。

日本史コースのとりくみ

毎年夏休み、大阪府和泉市で「地域の歴史的総合調査」を行っています。大学院生・学部生主体で実行委員会を立ち上げ、調査地に赴いて古文書や石造物の調査、住民への聞き取りなどを行い、報告書をまとめます。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学後、文学部の様々な入門的な授業を通して、同じ対象を扱う場合でも学問によってアプローチが異なることに気がきました。他のコースと最後まで悩みましたが、自分に合っている、やってみたいと思えるアプローチが歴史学だったので、日本史コースを選びました。

コースの魅力は

高校までの歴史の授業とはまったく異なります。例えば、中央の政治史だけではなく、人々の暮らしや地域史にも焦点が当たります。それらの史料や論文を読み、授業の履修者や大学院生、先生方と内容を検討する時間が非常に楽しいです。また、先生方の専門分野が幅広い各時代にわたっているため、時代や分野を問わずにテーマを設定することも魅力の1つだと思います。



3年生
岡本 拓也 さん
OKAMOTO Takuya

卒業論文タイトル紹介

- ◆摂関期を中心とした看智長の位置づけ
- ◆戦国期から江戸時代草創期の最上義光による宗教政策の性格
- ◆戦後における大阪土地建物株式会社の経営転換

語られ紡がれた異世界語りを読み解く

世界史コース

World History



先生に聞く！ 世界史コースとは

コースの教員は、中央アジアから東地中海世界（ロシア帝国・オスマン朝・ビザンツ帝国）を専門とし、ユーラシア（ヨーロッパとアジアをつなぐ世界）の広がりの中で、東西両世界を見渡す研究を行っています。また、ヨーロッパ史・中国史における都市や農村の生活史、前近代世界で重要な役割を担った宗教文化（儒教・キリスト教・イスラーム）と社会との関わりについても研究を進め、国際的な成果につなげています。世界史コースでは、外国語や異文化に関心を持ち、多彩な読書経験を通じて未知の世界を本格的に学びたい人を歓迎します。



草生 久嗣 教授
Professor KUSABU Hisatsugu

教員紹介

渡辺 健哉 わたなべ けんや	教授	中国近世史近代史
濱本 真実 はまもと まみ	教授	中央ユーラシア史、ロシア史
上野 雅由樹 うえの まさゆき	教授	オスマン帝国史
三浦 雄城 みうら ゆうき	准教授	中国古代中世史、中国中古政治文化史
北村 昌史 きたむら まさふみ	教授	近現代ドイツ社会史
草生 久嗣 くさぶ ひさつぐ	教授	ビザンツ帝国史、古代地中海史
向井 伸哉 むかい しんや	准教授	フランス中世史

世界史コースの「博物館・美術館」

図書館・博物館（美術館）・文書館は、人類が残してきた知識・記録・技術・作品を保存し伝える場であり、歴史学にとって最も重要な研究の現場の一つです。日本や世界各地の三館を繰り返し訪れるのは、歴史を伴った所蔵資料や展示品を見るだけでなく、その空間や体験そのものを記憶し、研究仲間と共有するためでもあります。歴史学を学ぶことで、その隠れた価値や魅力に気づかれます。

世界史コースのとりくみ

読書と卒業論文を大切にしています。1年生から、どの学年・段階であっても、各自の研究テーマに関わることに、すべての教員が随時アドバイスできる体制を整えています。

学生に聞く！ コース所属のきっかけは

哲学歴史学科に進むことは入学時から決めていましたが、どのコースにするかは悩んでいました。このコースを選んだきっかけは、歴史学教室の先生方がオムニバス形式で授業をしてくださる概論の授業を受けたことです。その授業の中で、世界史コースの分野の幅広さ、自由さに引き込まれ、次第に、自身の興味あるテーマを見つけ、突き詰めてみたいと思うようになりました。

コースの魅力は

少人数の授業が中心で、周りの生徒たちと様々な意見の交換ができることを気に入っています。授業を受ける前はもっと近寄りがたく難しい内容を想像していましたが、実際に授業を受けてみると日常に寄り沿ったようなテーマも多く、興味をもって聞くことができています。



3年生
坂 千淳 さん
SAKA Chihiro

卒業論文タイトル紹介

- ◆ブトレマイオス朝期のヘレニズム —デモティック婚姻契約書からみる女性の財産的地位からの考察—
- ◆『クタDoug・ピリグ』の「神」 —テュルク民族による「神」の認識—
- ◆イザーク・ティツィングによる日本文化についての記述とその受容 —19世紀初頭イギリスの書評を手掛かりに—

「わたし」と「社会」のつながりを読み解く

社会学コース

Sociology



先生に聞く！ 社会学コースとは

社会学は、私たちが生きる社会のしくみを、人と人との関係から読み解く学問です。私たちの日常的な行動や悩みは、個人の意思や自己責任によるものと思われがちですが、実際には家族、地域社会、メディア、制度など、私たちを取り巻くさまざまな「社会構造」に大きく影響されています。社会学では、こうした「当たり前」を問い直し、ふだんは見えにくい社会の実態を明らかにします。格差、ジェンダー、家族、移民など、現代社会が抱える多様な課題に対して、データと理論の双方からアプローチし、その背後にあるしくみを深く理解していきます。そして、自分自身の経験を社会の中に位置づけながら、他者への理解を深め、よりよい社会のあり方を考える力を養います。



金 希相 准教授
Associate Professor Heesang KIM

教員紹介

石田 佐恵子 いした さえこ	教授	映像社会学、メディア文化研究、知識社会学 ※2026年度退任予定
伊地知 紀子 いぢち のりこ	教授	生活世界の社会学、地域社会学、朝鮮地域研究 / 社会学
川野 英二 かわの えいじ	教授	都市・社会政策の社会学、比較社会学
金 希相 きむ ひさん	准教授	都市社会学、国際社会学、住宅研究

社会学コースの「博物館・美術館」

博物館・美術館は、単に資料や作品を展示する場所ではなく、社会が何を「価値あるもの」とみなし、どのように記憶し、次世代へ伝えるのかを示す場でもあります。展示の構成や解説には、歴史、文化、権力、地域性、ジェンダーなど、社会の見方が反映されています。社会学の視点から見ると、博物館・美術館は、文化や記憶がどのように選ばれ、共有され、社会の中で意味づけられていくのかを考える手がかりになります。

社会学コースのとりくみ

社会学コースでは、現代社会をとらえる方法（社会調査法）を体系的に学べるカリキュラムが用意されています。フィールドワークや統計データ分析などを通して、身近な疑問を社会的な問いへと深めていきます。

学生に聞く！ コース所属のきっかけは

社会学コースでは様々な学問領域の中から、卒論のテーマを選ぶことができると先輩から聞いたからです。私はふだんから雑誌を読んでおり、入学前は他のコースに興味がありました。しかし人間行動学概論で社会学とメディアの関係についての講義を受け、社会学コースを志望するようになりました。

コースの魅力は

同級生と意見を交わす授業が多いことが魅力の一つだと考えています。3年生の前期では10人程度のクラスでメディア社会学に関する本を読み、意見を交わす授業を履修しています。様々な意見を交わすことを通じて、自らの視野を広げることができています。メタ的な視点を育むことができることも魅力の一つだと思います。



3年生
岡本 健太 さん
OKAMOTO Kenta

卒業論文タイトル紹介

- ◆「日本人の意識調査」を用いた「社会の心」の検討 —「現在志向」に着目して—
- ◆女性アイドル楽曲における身体表象とジェンダー役割の変遷 —2010年代と2020年代の歌詞比較分析を通じて—
- ◆消費社会と自己再帰性の観点から考えるパーソナルカラー診断と理想の自己

見えない心を測る方法を学ぶ

心理学コース
Psychology

先生に聞く！

心理学コースとは

なぜ練習によって、できなかったことができるようになるのでしょうか。なぜ同じものを見たり聞いたりしても、人によって捉え方が違うのでしょうか。私たちの心の動きは、脳や身体のおしくみとどのように関わっているのでしょうか。心理学は、そんな目に見えない心について、外から見える行動のデータをもとに、科学的に明らかにする学問です。

心理学コースでは、生理、神経、学習、認知、発達、社会、文化、性格など、心に関わる領域を幅広く学びます。特に、実験・調査・観察といった実証的な研究方法を重視し、心のメカニズムを考える力を身につけることを目標としています。

心理学コースのとりくみ

核となるのは心理学実験演習です。文学部のイメージと少し違うかもしれませんが、ヒトや動物を対象とした実験を行い、データを分析します。3年生以降は各自でテーマを決めて、実験や調査に取り組みます。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学前から心理学に興味がありましたが、授業を受けてみると他コースの学びも面白く、どのコースに入るか迷っていました。そのなかで、概論や総合教養科目の授業で心理学に触れ、「心」の面白さを再認識し、これから専門的に学んでいきたいと強く思い、心理学を選びました。

教員紹介

川邊 光一 かわべ こういち	教授	生理心理学、行動神経科学、行動薬理学
佐伯 大輔 さえき だいすけ	教授	学習心理学
橋本 博文 はしもと ひろふみ	准教授	社会心理学
山本 寿子 やまもと ひさこ	准教授	認知心理学、発達心理学

心理学コースの

「博物館・美術館」

博物館や美術館は、「見る」「聞く」「注意する」「理解する」「知る」といった心のはたらきを体験できる場です。また、科学博物館ではヒトや動物の心や行動をテーマにした展示が、美術館では錯視を活かしたトリックアートが扱われるなど、心理学そのものが展示の対象となることもあります。

コースの魅力は

心の働きについて科学的な手法で研究し、実験や分析方法を実践的に学べるのが最大の魅力だと思います。また、心理学は様々な専門分野に分かれていて、「特論」という授業で各分野の基本知識や考え方を学ぶことができます。これらの授業を通じて、自分の興味関心をより深めることができ、自身の興味に合った専門分野で研究ができることも魅力の1つです。



3年生
舟橋 穂香 さん
FUNAHASHI Honoka

卒業論文タイトル紹介

- ◆匂い文脈の異同が虚偽記憶に及ぼす影響
- ◆恐怖は人を動かすか ―こども隙間転落防止プロジェクトを通じた検証―
- ◆ハトのリスク選択における報酬量効果

より良い人生を探究する教育学

教育学コース
Education

先生に聞く！

教育学コースとは

「教育」と聞くと「学校教育」のことにように思われがちですが、実は「家庭教育」や「社会教育」、さらには「職業教育」など、より日常的で幅広いテーマも扱います。人間はひとりであるときにも学んでいるため「自己教育」という分野もあります。教育学コースでは、学校教育にとどまらない多様な教育を探究できます。「より良い人生」には公教育も大切である一方、理想の人生は人それぞれ異なるため、自分にとって大切な「教育」を見つけることも大切です。学問としては、ある「教育」に実践から迫ることもでき、制度や思想から迫ることもできます。国際比較など試してみても面白い発見があるものです。

教育学コースのとりくみ

授業以外にもフィールドワークや調査旅行、国内外の大学との交流などイベントが豊富で、学生企画から教員企画まで多彩に行われています。もちろん、無理に参加を求められることはありません。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学前から教育学に関心があり、本コースを希望していました。「教育学はすべての学問に隣り合わせ」という言葉が私は好きなのですが、日常の至る所に教育学的考察の余地がある面白さを知り、大学では教育学を専攻したいという気持ちが固まりました。

卒業論文タイトル紹介

- ◆進学校における不本意通学の実態
- ◆学校と学習塾の関係に対する教員の認識 ―中学校教員の語りから見る役割意識と葛藤―
- ◆バラエティ番組における「いじり」と学校現場 ―テレビ局員と教員の認識比較に基づく協働的介入の可能性―

教員紹介

伊井 義人 い い	教授	教師教育学
弘田 陽介 ひろた ようすけ	教授	教育思想史
辻野 けんま つじの けんま	准教授	教育経営学
島田 希 しまだ のぞみ	准教授	教育方法学
関口 洋平 せきぐち ようへい	准教授	比較教育学

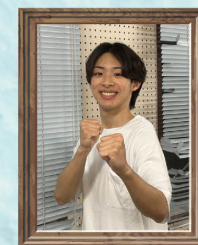
教育学コースの

「博物館・美術館」

博物館・美術館は、教育学の視点から見ると、図書館や公民館と並ぶ大切な「社会教育施設」です。学校のように教科書やテスト、成績評価はなく、〈遊び・趣味・学び・教育〉の境界が交わる場でもあります。一方で、義務教育ではないために訪れない人も少なからずいます。学校化された社会（schooling society）とも言われる現代、ちょっと博物館・美術館めぐりをすると新しい世界と出会えるかもしれません。

コースの魅力は

授業ではディスカッションの機会が多く、とても勉強になります。聞く人それぞれに異なる教育的バックグラウンドがあり、新たな気づきを得ることができます。また、他の生徒や先生方との距離が近いことも魅力的です。教育学コースでは「時間と空間を共有する」ことを大切にしており、コース全体の仲が良いことも特徴の1つです。



3年生
小北 大翔 さん
KOKITA Yamato

人間と（自然／社会）環境との関係を考える

地理学コース

Geography

先生に聞く！

地理学コースとは

地理学コースでは、現場に出かけて行って自分の目で見て、関係者の話を聞きながら、現場で課題・問題を発見し、現場でその課題について考えます。また、そうした考察を進めるには、GIS等のツールを駆使して大量の数値データを分析することもあります。地理学コースでは実習の授業を通じて、それらのスキルを身に付けます。

現地調査では、人とのコミュニケーション能力を養うことにもなります。予想外の情報に接することもあります。パソコンを駆使したデータ処理では、人間の分析能力では分からないことが見えてくることもあります。理論や枠組について学習する演習授業と組み合わせ、充実した研究を行えるカリキュラムになっています。

地理学コースのとりくみ

授業の一環でまちを歩きます。授業とは別に、学生有志でエクスカッションを行うことも少なくありません。教員や院生が調査に行く場合でも学部生を誘ったりします。皆さん自身でもまち歩きコースを考えてみてください。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学前から自然災害に興味があり、概論や総合教養科目を受講して面白いと感じたこと、そして環境や災害を専門とする先生がいらっしゃることがコース選びの決め手でした。実際に本コースに所属し、2年生の授業を経た現在は、芸術を利用したまちおこしに関心があります。

コースの魅力は

あらゆるテーマを対象にできる地理学の自由さは、入ってから気づいた魅力です。2年生ではインタビューなどの実践的なフィールドワークの授業があり、主体的に行動する力を身につけることができます。また、希望制の自主ゼミや食事会もあり、教員や先輩、後輩の垣根を越えて楽しく交流できる環境があります。



3年生
下迫 彩夏 さん
SHIMOSAKO Ayaka

卒業論文タイトル紹介

- ◆妖怪の行動に関する空間論的研究 ―屋外の機織姫の伝承実態の分布論的検討を通じて―
- ◆東京都区部を対象とした民泊施設 Airbnb の立地分析
- ◆鉄道を活用した周遊型リアル謎解きイベントの実態把握と地域振興への可能性

教員紹介

山崎 孝史 やまざき たかし	教授	政治地理学、沖縄研究 ※2026年度末退任予定
祖田 亮次 そだ りょうじ	教授	地理学、地域研究
木村 義成 きむら よしなり	教授	地理情報科学
菅野 拓 すがの たく	准教授	都市地理学、 サードセクター論

地理学コースの

「博物館・美術館」

博物館の歴史は、植民地・帝国主義の歴史とも関わっています。そして、新大陸・新天地の探索・統治には、地理学者も深く関わってきました。教養・娯楽施設としての現代の博物館は色々な利用の仕方がありますが、その背景を考えながら見ることも重要です。たとえば東南アジア諸国の博物館では、シビアな内容も含め、歴史的経緯に関する様々な主張が見え隠れします。それを読み解こうとするのも、博物館の楽しみ方のひとつでしょう。

日本の言葉と文学を追究し、未来へつなぐ

国語国文学コース

Japanese Language and Literature

先生に聞く！

国語国文学コースとは

国語国文学には、日本語の研究（国語学）と、日本語で書かれた文学の研究（国文学）が含まれます。国語学も国文学も、その発生から現在までの全ての時代・ジャンルが学びの対象となります。授業は学生自身が調べて発表する演習形式が多く、ひたすら文献と向き合う地味な作業が中心になります。それは自分の感覚や現代の常識によるのではなく、その時代の考え方や背景に即してこそ、単なる鑑賞ではない研究となるからです。今、私たちが『源氏物語』を現代語訳で読むことができるのは、千年以上にわたり先人が『源氏物語』を写し、研究してきた積み重ねがあるから。国語国文学は、日本の言葉と文学作品、そしてその研究を次代へつなぐ学問です。

国語国文学コースのとりくみ

毎夏、全国から文楽ファンが集う「上方文化講座」を開催しています。明治の講談本など古い資料を手にとって実習する授業もあります。学生が自分で調べて発表する、演習形式の授業が多いのも本コースの特徴です。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

以前から読書や国語の授業が好きで、さらに学びを深めたいと思ったことがきっかけです。入学後、様々な概論の授業を受ける中、他のコースにも惹かれていましたが、最終的には古今の文化を構成する言語そのものに関心を抱き、このコースに進むことを決めました。

卒業論文タイトル紹介

- ◆明治期の漢語「具体」におけるサ変動詞用法の衰退
- ◆高田善蔵物実録諸作品の影響関係 ―「至忠加賀光絹」を中心に―
- ◆江戸川乱歩随筆から再考する「陰獣」

教員紹介

久堀 裕朗 くぼり ひろあき	教授	日本近世文学 (2026年度学部長)
奥野 久美子 おくの くみこ	教授	日本近代文学
山本 真由子 やまもと まゆこ	准教授	日本中古文学
間枝 遼太郎 まへだ りょうたろう	講師	日本中世文学
大島 英之 おおしま ひでゆき	講師	日本語史

国語国文学コースの

「博物館・美術館」

国語国文学の分野では、活字化された文献に拠るだけではなく、物としての古典資料自体（写本・版本等）にあたって研究を行うことも時に必要となりますが、博物館・美術館にはそうした資料が数多く収蔵されています。展示では貴重な資料を間近で見ることができますし、また研究をする際には収蔵庫に眠っている資料が重要になることもあるでしょう。みなさんにもぜひ博物館・美術館に親しんで、活用していただきたいと思います。

コースの魅力は

授業では幅広い時代の日本文学や日本語を扱います。1つの作品の中には時代背景や他作品の影響、作者の一貫した考えなど様々な繋がりが隠されていて、多様な文献に当たりそれらを読み解く面白さを知ることはこのコースでの学びの醍醐味です。また学生同士や先生方と議論する機会も多く、他者から新たな気づきを得ることで一層作品や言語の奥深さを感じられることも魅力です。



3年生
鈴木 希実 さん
SUZUKI Nozomi

言語・文学・文化を通して多様な中国を知る

中国語中国文学コース

Chinese Linguistics and Sinology

先生に聞く！

中国語中国文学コースとは

本コースで研究対象となる〈中国〉とは、中国大陆、台湾、香港、さらに東南アジアの華人世界なども含むいわゆる中華圏のことであり、長い歴史的連続性と現代のダイナミズムが共存するこの多様な中華世界に触れ、一端を理解することが研究の一つの醍醐味と言えるでしょう。所属教員の専門は、映画・ドラマなど表象芸術を社会の映し鏡として分析する文化研究、各国文献を用いて中国語の歴史の変遷を考える言語研究、詩人の生涯や作品を当時の社会的背景も踏まえて深く考察する文学研究などで、授業では主に原資料を用いて分野の大要や基本的な研究手法を学ぶほか、少人数教育を活かして、個々人の関心に沿った形での多様な学びも目指しています。



大岩本 幸次 教授
Professor OIWAMOTO Koji

中国語中国文学コースのとりくみ

「中国語中国文学概論C」では漢字の研究書『説文解字』（100年頃）を紐解きつつ古代文化の諸相を学びます。漢字や古典の基礎知識を得ることが主な目的ですが、今と異なる古代の感覚に新鮮さや驚きを感じることもしばしばです。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学当初は様々な学問に興味がありどのコースに進むか迷っていました。しかし、小さい頃から漢字に興味があり親しみを感じていたことに加え、初修外国語の授業を通して中国語や中国文化に興味を持ったことが、中国語中国文学コースを選ぶ決め手になりました。

コースの魅力は

中国語中国文学コースの魅力は、少人数制でアットホームな雰囲気の中、一人ひとりに丁寧な指導をしていただける点です。また、漢詩や漢文は最初は読むことが難しく感じましたが、内容を理解できるようになると、その表現の豊かさや面白さに気づくことができました。文学だけでなく、中国の歴史や文化についても幅広く学ぶことができ、新たな発見が多い点も魅力だと思います。



3年生
田中 詩歩 さん
TANAKA Shiho

卒業論文タイトル紹介

- ◆『捜神記』変化論の考察
- ◆甲骨文における「人」の形
- ◆中国漫画・アニメ作品『非人哉』から見る中国の神獣 一白澤を中心にー

教員紹介

張 新民 教授 中国語中国文学
ちよう しんみん

大岩本 幸次 教授 中国語中国文学
おおいわもと こうじ

高橋 未来 教授 中国語中国文学
たかはし みき

中国語中国文学コースの「博物館・美術館」

調査では高精細画像データの方が目を細めて実物を見るより助かることも多いですが、画像未公開の場合や画像に不明瞭な箇所がある時など、博物館の閲覧室や特別展に原本を見に伺うことがあります。時にそれは30cm四方に満たない残片だったりしますが、当時この通俗の内容が盛行するも通俗的なだけに伝存しにくかったのかな、この一張がよく失われてしまわなかったな、など本物と場を共有するリアリティと相まって心にしみみます。



英語圏の言語・文学・文化事象の探究

英米言語文化コース

English and American Language and Literature

先生に聞く！

英米言語文化コースとは

英語学、近現代の詩や散文（小説や評論）といったイギリス文学およびアメリカ文学、イギリスやアメリカをはじめとする英語圏の文化事象について学びます。「英語コミュニケーション」など、ネイティブスピーカーの先生が担当する科目でコミュニケーションスキルの向上をはかりながら、講義科目では英語学・イギリス文学・アメリカ文学・英米文化それぞれの領域に関する概要を学び、演習科目で文学作品や研究書などの英語文献の講読やプレゼンテーションを行って、講義で学んだ知識を身につけていきます。卒業論文では、3年生までに身につけた知識や論理的思考力を駆使しながら、自分で設定した課題について探究を行ってもらいます。



高橋 愛 教授
Professor TAKAHASHI Ai

英米言語文化コースのとりくみ

演習をはじめとする科目では英語学・文学・文化に関する英語文献講読やプレゼンテーションを行うため、それぞれの領域に関する専門知識を身につけながら、英語のスキルを高めていけるようになっています。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

高校時代から社会科か英語科の教員志望で他コースと迷いましたが、大学で英語学の講義を受け、当たり前を根本から問い直す学問の魅力に気づいたのが決め手です。入学前は語学力向上に目が向いていたが、入学後は言葉の背景にある構造や文化そのものを探究したいと興味が深化しました。

コースの魅力は

英語での講義が多く、自然と発話や聴解力が身につく環境が魅力です。また、単に文学作品を読むだけでなく、英米の歴史的背景を踏まえて文学やアートを多角的に分析するため、学びの視野が非常に広がります。



教員紹介

豊田 純一 教授 言語学、認知科学、文化人類学
とよた じゅんいち

高橋 愛 教授 19世紀アメリカ文学
たかはし あい

Jean LIN 准教授 美学、芸術論
ジーン リン

清川 祥恵 准教授 イギリス文学
きよかわ さちえ

英米言語文化コースの「博物館・美術館」

アメリカ文学を代表する小説の1つにハーマン・メルヴィルの『白鯨』があります。『白鯨』は、モービー・ディックと呼ばれる巨鯨を追うエイハブ船長が率いる捕鯨船ピークオド号の航海を軸にしていますが、19世紀当時のアメリカ捕鯨の様子を伝えてくれる場所にマサチューセッツ州ニューベッドフォードの捕鯨博物館があります。鯨の骨格標本と並ぶ捕鯨ボートなど、展示品の数々は、読書体験にリアリティを与えてくれます。



3年生
八尾 柚希 さん
YAO Yuzuki

卒業論文タイトル紹介

- ◆『海流の中の島々』におけるハドソンの変容
- ◆“May we”それとも“Can we”? — 企業 SNS 戦略に見る英語ポライトネス形式の多様化
- ◆Marketing Analysis of SDGs Thinking in the Fast Fashion Industry: A Case Study of Underwear

ドイツ語圏の視点を知り、世界を捉え直そう

ドイツ語圏言語文化コース

German Language and Literature

先生に聞く！

ドイツ語圏言語文化コースとは

単なるドイツ語習得にとどまらず、言語・文学・文化の視点からドイツ語圏を網羅する総合学問「Germanistik (ゲルマニスティック)」を探究します。まずは講義で3つの専門分野（言葉の仕組みに迫る「言語」、人間の内面や歴史を映す「文学」、思想や社会を捉える「文化」）の基礎を修得します。さらに演習で原書を読み解く力を養い、生きたドイツ語に触れる授業で実践的なコミュニケーション能力を身につけます。

少人数だからこそ学生同士や教員との距離が近く、落ち着いた雰囲気の中で納得がいくまで自身の問いを突き詰められる環境です。ドイツ語圏というフィルターを通し、その地域の魅力だけでなく、世界を捉え直す新しい視座を身につけませんか。

ドイツ語圏言語文化コースのとりくみ

ドイツ語圏作品の読書会、鑑賞会や留学報告会、ハンブルク大学の学生とのオンライン交流授業など、任意で参加できるイベントが様々あります。学生同士の距離が縮まり、楽しみながらドイツ語圏を知ることができます。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

最初は、ドイツ語圏の哲学者の著書を原文で読めるようになりたいという思いから、このコースを選びました。入学前は他の学問への関心が中心でしたが、学びを深める中で、ドイツ語圏の文化や歴史、人々の価値観にも強く興味を持つようになりました。特に、実際にドイツを訪れた際に感じた「良い意味でのカルチャーショック」は非常に印象的で、現地

の生活や文化に直接触れた経験が、自分の視野や関心をさらに広げる大きなきっかけになりました。

コースの魅力は

所属コースの魅力は、研究分野の幅広さです。多様な授業を通して興味が深まり、自分が本当に学びたいテーマを見つけることができました。学問に対する視野も大きく広がったと感じています。



3年生
奥田 成海 さん
OKUDA Narumi

卒業論文タイトル紹介

- ◆ワグナー『ローエングリン』再考 ―ロマンティック・オペラとしての到達点と限界に着目して―
- ◆副詞的要素の語順に関する日独比較 ―状況語に着目して―
- ◆トーマス・マンと言語の虚偽性 ―初期作品を手掛かりに―

教員紹介

高井 絹子 たかい きぬこ	教授	20世紀 ドイツ語圏文学・文化
長谷川 健一 はせがわ けんいち	准教授	18・19世紀 ドイツ語圏文学・文化
信國 萌 のぶくに もえ	准教授	現代ドイツ語学、言語学
Simon OERTLE シモン エルトレ	特任准教授	比較言語学、ドイツ語教育、 比較文化研究

ドイツ語圏言語文化コースの「博物館・美術館」

ドイツ語圏の博物館や美術館は、華やかな美術品から最先端の科学技術、戦争やホロコーストといった負の歴史を伝える展示まで、驚くほど多様です。現地では、こうした場において自らの言葉で分析し、他者と議論する文化が根づいています。作品をどう理解するかが問われるのです。正解を1つに絞るのではなく、多様な視点に触れながら自分の考えを育て、対話の中で深めていく主体的な鑑賞の姿勢は、「Germanistik」の学びとも重なります。

フランス語を通じて見える万華鏡的世界の像

フランス語圏言語文化コース

French Language and Literature

先生に聞く！

フランス語圏言語文化コースとは

「フランス語圏」は、フランス語が話される国や地域、共同体を広く指します。フランス語は欧州だけでなく、アフリカや北米、オセアニア、アジアでも使われ、様々な歴史的経緯でつながっています。本コースでは、言語・文学・文化という3つの学問領域からこのフランス語圏に関する知識を学び、またフランス語で書かれた文学作品や資料文献を読んで書いた側の視点や考えを探り、さらに考察力を深めるような授業を提供しています。こうした学びの集大成として、最終年には自らの関心を掘り下げて卒業論文を執筆します。これまで芸術やファッション、言語教育、美食、旧植民地文学などの多彩な研究テーマが選ばれ、幅広い学びが反映されています。



白田 由樹 教授
Professor SHIRATA Yuki

フランス語圏言語文化コースのとりくみ

「フランス語圏言語文化特別演習」では卒論の準備段階として、それまでの専門課程の学びをふまえながら、研究テーマや方法論を模索します。調査と発表、対話の中から互いの触発が生まれ、知の創造性が見えてきます。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学当初の私は文化に興味があり、複数のコースで迷っていました。しかし、初修外国語でフランス語を学ぶ中で初めて触れる言語の難しさを感じる分、理解できた時の楽しさが強く印象に残り、継続して学びたいと思うようになりました。また、先輩方から伺ったコースの雰囲気にも惹かれました。

コースの魅力は

本コースでは、フランス語圏の歴史や文学、文化について幅広く学び、日本との違いから日々新たな発見を得ることができます。また、学生同士でコミュニケーションを取る機会が多く、先生方も親しみやすいため、居心地のいい授業の雰囲気も魅力的です。そして、日々の中にあるちょっとしたフランス語を見つけることが、私の楽しみになりました。



3年生
川路 萌恵菜 さん
KAWAJI Moena

卒業論文タイトル紹介

- ◆オノレ・ドーミエの「ロベール・マケール」シリーズにおける群衆表象と19世紀フランスの社会構造
- ◆混合研究法による初級フランス語学習の動機づけと自律学習能力の関係性に関する探索的研究
- ◆『帰郷ノート』Cahier d'un retour au pays natal においてエメ・セゼールはいかにしてフランス語を自らの詩的言語に作り変えたか

現代文化を幅広く研究する

表現文化コース

Culture and Representation

先生に聞く！

表現文化コースとは

表現文化コースは、現代社会のさまざまな文化現象を「表現」という観点から探求するコースです。その探求の範囲は、文学、アート、写真、演劇、映画などのいわゆる芸術表現に限られず、ファッションや広告、ポピュラー音楽やキャラクター文化、アニメーション、マンガ、ゲーム、スポーツ、2.5次元舞台などの多彩なポピュラー文化も含まれます。また、今日の文化を考える上で欠かすことができない、二次創作やネット・コミュニケーションを背景とした文化実践も研究対象です。「身の回りのあらゆる文化現象」を学術的に考究し、ありふれた日常を異なる角度から再考する知的視点を獲得するのが本コースの目的です。

表現文化コースのとりくみ

必修の「表現文化論基礎演習」では、小説・マンガ・アート・映画などの作品分析の手法を身につけます。2名の教員が常に議論に参加するコ・ティーチング形式の「表現文化論特殊演習」といった授業も開講しています。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

最初は他の学問に興味があったのですが、受験期に読解問題として出会った小説のさりげないモチーフや、大好きなアニメを分析している記事、ごはんのお供にしていたドラマのちょっとした表現に感動し、私もこんなふうに作品を見られるようになりたいと思いました。入学後は他の学問領域にも興味を抱くようになったので、作品が生み出された社会背景にも注目しています。

卒業論文タイトル紹介

- ◆K-POP 女性アイドルにおける自己肯定の語りと外見規範 ―整形文化と日韓アイドルの比較からみるその構造―
- ◆概念推し活 ―なぜ推しを身に付けたいのか
- ◆ガチャ基盤型モバイル系ゲームにおけるゲームメカニクスと推し消費の連関 ―分析カテゴリーの提示と消費構造の顕在化への試み―

教員紹介

増田 聡 ますだ さとし	教授	音楽学、メディア論、 ポピュラー音楽研究
海老根 剛 えびね たけし	教授	表象文化論、ドイツ研究、 人形浄瑠璃の観客史
江村 公 えむら きみ	教授	近現代芸術論、 ロシア文化研究
ESCANDE, Jessy エスカンド ジェシ	准教授	ファンタジー研究 (ジャンル論)・ゲーム研究

表現文化コースの

「博物館・美術館」

表現文化コースにとって博物館・美術館は身近な存在で、コースの遠足などでよく訪れます。しかし、われわれが博物館などで観るものはその収蔵品のごく一部でしかありません。博物館などには広大なバックヤード（倉庫）があり、膨大な「見えない収蔵品」が博物館や美術館を支えています。表面に見える文化現象は、背後に横たわる歴史や構造により成り立っている。表現文化コースは、そのような文化の表と裏の関係を探求します。

コースの魅力は

なんでもできるところです。映画、アニメ、音楽、美術など対象として扱えるものの範囲が広く、それらをさまざまな視点から見つめることができます。所属している学生もそれぞれ好きなもの、詳しいものがある人ばかりなので、ディスカッションでは特に学びが多くおもしろいです。



3年生
上東 華恵 さん
KAMIHIGASHI Hanae

地域・共生・比較でアジア文化を活かす

アジア文化コース

Asian Culture

先生に聞く！

アジア文化コースとは

アジア文化コースは、アジアの文化的ダイナミズムをテーマとする総合的なコースです。「地域」「共生」「比較」の3つのコンセプトを軸に、各地域の特性を学び、文化の多様な活用を考えます。その範囲は広く、抹茶スイーツやアジア伝統工芸のインテリア活用、ハラル・フードの新ビジネス展開まで多岐にわたります。文化の身近な利用から経済的活用まで、また哲学的思索から実践的応用まで、アジア文化の可能性を幅広く探求します。アジアとの交流がますます重要となる現代において、深い理解と共感、鋭い感性、そして専門的知識を備えた人材の育成をめざします。



宋 恵媛 教授
Professor
SONG Hyewon

アジア文化コースのとりくみ

「アジア比較文化概論」では、比較文化的観点から日本文化の発信と受容を学びます。また、美術館への学習散歩など、現場に赴く実践的な取り組みも行っています。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学前から東アジアの文学、音楽、宗教、食などに漠然とした興味を持っていたので、コース選択前からアジア文化コースは視野に入れていました。入学後、様々なコースの授業を受けていくうちにアジアの国々の文化が生み出され変化していく過程と、その経済利用について考えることができる点に惹かれ、アジア文化コースを選びました。

卒業論文タイトル紹介

- ◆「和食」文化の再構築とユネスコ無形文化遺産登録
- ◆K-POP の歌詞の言語によるグローバル戦略
- ◆マラータンの流行に見る Z 世代女子の主体的な文化利用

教員紹介

多和田 裕司 たわだ ひろし	教授	文化人類学 ※2026 年度末退任予定
堀 まどか ほり まどか	教授	国際日本研究、 比較文学比較文化学
宋 恵媛 そん へうおん	教授	コリアン・ディアスポラ研究、 在日朝鮮人研究、 ジェンダー研究、日本研究
王 静 おう せい	准教授	現代中国文化論、 茶文化、観光

アジア文化コースの

「博物館・美術館」

博物館・美術館は、アジア文化を「生きた文化」として体感できる現場です。本コースが重視する「地域」の固有性、「共生」の実践、「比較」の視座は、展示空間でこそ鮮明になります。文献だけでは見えない文化の厚みや、異なる文化が交差する瞬間に触れることで、アジア文化への理解は格段に深まります。授業でも、ミュージアム訪問や芸術受容史の学習を行っており、博物館・美術館を不可欠な学びの場と位置づけています。

コースの魅力は

一括りにしてしまいがちな「文化」について、意味を問直し、アジアの各地域に目を向けて見えてくる多様な課題に対し考えを深めることができるのが大きな魅力だと思います。また少人数ですが、授業の中でディスカッションや個人発表で意見を交換して考えを深めることのできる場が豊富なことも魅力の1つだと思います。



3年生
丸山 彩乃 さん
MARUYAMA Ayano

文化・芸術を実践的・領域横断的に学ぶ

文化資源コース

Cultural Resources

先生に聞く！

文化資源コースとは

文化資源と言うと、文化遺産の保存といったイメージがありますが、本コースでは、絵画や建物、街並みといった「モノ」としての文化のみならず、演劇の上演や、イベント、観光ツアー、アートワークショップなどの「コト」としての文化にも着目します。文化資源コースの大きな特徴は、座学による学びだけではなく、アートイベントの企画や観光メディアの制作、まちづくりや地域再生に関する現地フィールドワーク、音楽ワークショップの企画・参画、美術館に関する企画などの実践的な取り組みに関わることを通じて、文化力を引き出すためのセンス（感性）とメチエ（技能）を体験的に養うことにあります。



沼田 里衣 准教授
Associate professor
NUMATA Rii

教員紹介

菅原 真弓 すがわら まゆみ	教授	美術史学、文化資源学、博物館学
天野 景太 あまの けいた	准教授	観光学、都市社会文化論
沼田 里衣 ぬまた りい	准教授	コミュニティ音楽療法、臨床音楽学
坂本 篤史 さかもと あつし	准教授	西洋美術史、比較文化史、博物館学

文化資源コースの「博物館・美術館」

本コースは、博物館・美術館における展示内容から学ぶだけでなく、それらの内容をどのように企画し、誰にどのように発信するのかといった視点と関わっています。つまり、文化資源学では、それらの場所や内容を、社会のさまざまな側面との関連から考える視点が求められるのです。そのため、本コースの学びに直接的に関連する職種として、博物館・美術館の学芸員が挙げられます。

文化資源コースのとりくみ

美術、観光、音楽に関する演習・実習の授業では、文化資源研究の視点と方法に関して学び、実際に社会の様々な側面と関わりながら、それらを社会で活用するためのプランを作成したり、プロジェクトを実施します。

学生に聞く！

コース所属のきっかけは

入学前は他コースへの進学を考えていました。しかし、概論の授業を受ける中で、自分が本当に興味を持っているのは「文化」であることに気づきました。そこで文化資源コースの授業を受けたところ、文化の活用について具体的な事例をもとに学ぶ点に魅力を感じ、このコースを選びました。

コースの魅力は

本コースの魅力は、学生主体で実践的に学ぶ機会が多いことです。同学年の学生と協力して企画を作り上げていくのは困難なことも多いですが、やり遂げた時の達成感もひとしおです。また、文化を学問的に学ぶことで普段何気なく触れている地域文化について、その背景や価値を意識して捉えられるようになり洞察が深まりました。



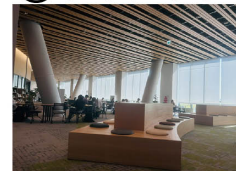
3年生
黒川 真奈 さん
KUROKAWA Mana

卒業論文タイトル紹介

- ◆クロミの人気現象に関する一考察 現代社会の閉塞感に注目して
- ◆1920～1933年の百貨店PR誌『三越』における近代女性像
- ◆地域活性化施策としてのリアル謎解きイベントに関する研究 ～地域における周遊行動の可能性を中心として



○ライブラリー



ライブラリー



プロジェクトルーム

ライブラリーは「知の森」をコンセプトとする森之宮キャンパスの中心施設で、知的交流ができるスペースを備えた学内の情報拠点としての機能を有しています。校舎の4・5階に位置し、約26万冊の蔵書を収納可能です。

個室ブースや、グループでの学習・議論に適したプロジェクトルームは「OMU+」の予約機能から手軽に予約可能で、自分に適した学びのスタイルを選択できます。

また、学生だけでなく、利用登録を行うことで地域住民の方も利用可能であり、大学の枠を超えて開かれた知の交流拠点としての役割を担っています。4階にはテラスへ出られるスペースがあり、勉強の合間の休憩にぴったりです。

○食堂

食堂は校舎1・2階にあり、毎日多くの学生に利用されています。季節によってメニューが変わったり、期間限定メニューが登場したりと、学生生活を「食」の面から彩っています。学食以外にも、「OMU Bento Hub」という便利なサービスが展開されています。これは、通学中や授業の合間に大学生協アプリで事前決済を行うことで、受け取り場所まで並ぶことなくお弁当を受け取れる画期的な仕組みです。

さらに4階には「OMU Cafe」もあり、焼き立てパンやドリンクをテイクアウトすることができます。このように忙しい学生生活の中でも手軽に食事や休憩を楽しめる環境が整っています。



食堂



OMU Cafe

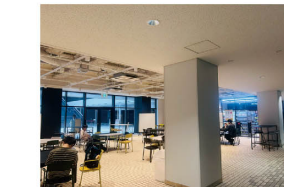
○アリーナ

校舎1・2階にあるアリーナ・サブアリーナは、主に1年生向けの健康スポーツ実習の際に使用されます。更衣室や自動販売機も設置されており、授業前後の準備や休憩にも便利な環境が整っています。

○学生ラウンジ

学生ラウンジは校舎の階に位置し、学生たちの憩いの場となっています。ここには無人コンビニが設置されており、昼食や軽食を気軽に購入することができます。

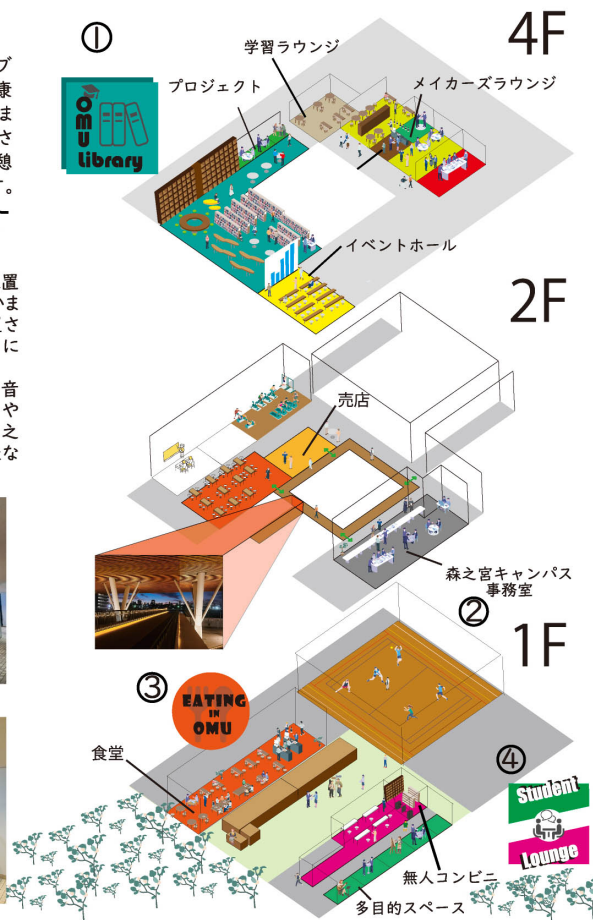
またアンプやドラムを備え、防音設備の整ったサウンドルームや多目的ブースも設けられており、森之宮キャンパスにおける学生の多様な活動を支える空間となっています。



学生ラウンジ



無人コンビニ「OMU Base」



人文学学際研究センター (HIRC) 副所長
しんがえ あきとも
新 ヶ 江 章 友 教授
専攻: クリア人類学 医療人類学

人文学学際研究センターは、2025年に文学研究科内に設立された新しい研究拠点です。学内外の多様な研究者と連携しながら、共同研究などの活動を広げています。特定のコースや文系・理系、学部・学科の枠をこえ、共生、地域、環境など現代社会の課題に取り組みます。歴史・文化・社会・科学技術など複数の視点を結びつけ、異分野の研究者と協働しながら、新しい研究の問いを生み出す場をつくっていきます。こうした学際的な研究の広がりに関心をもっていたければ幸いです。



人文学学際研究センターの外観
12階にあります。



人文学 学際研究センター

Humanities-based
Interdisciplinary
Research
Center



海外の大学との国際共同研究や学術交流を積極的に進めることで、日本の人文学研究を世界へ発信するとともに、国際的な視点から新たな研究を展開しています。

大阪の歴史資料や文化資源をデータベース化して公開するほか、市民向け講座やシンポジウムを開催し、研究成果を広く社会へ発信しています。

大阪の歴史や文化をテーマとした研究、文化財の科学分析、生成AI時代における感性や美的価値の研究、在日コリアン文学や地域文化の研究、戦争と平和について考える教育実践など、多様なテーマに取り組んでいます。

合格者体験記

前期合格



おざわ じゅうそう
1 年生 小澤十蔵さん

Q 一日のタイムスケジュールは？

僕は学校が遠く、起床時間が 5 時半であつたため、いつも 22 時に就寝しておりました。通学時間が長かつたため、古文単語などの単語帳は電車でいそしみ、土曜日に、数学などのしっかりとした勉強を行っておりました。

Q 受験期にやってよかったことは？

直前期以外は得意で好きな教科に時間を割き、直前期に世界史や理科などの嫌いな教科の暗記を詰めたことで、だれることなく、勉強が続けられました。

Q どう気分転換していた？

晴れた日に家からダッシュで、できるだけ遠くへ行き、息を整えながら歩いて帰って来ることで頭をすっきりさせていました。

Q 受験生へメッセージを！

賢い人よりも頑張った人のほうが受かりやすいよ。

後期合格



こやま あつし
1 年生 小山敦士さん

Q 一日のタイムスケジュールは？

自分は日ごとに計画を立てるのが苦手だったので、週ごとに計画を立てて、毎朝その中から気分ですることを決めていました。この方法だと、「今日は気分じゃない」のような理由で勉強時間が短くなってしまうことが少ないのでオススメです。

Q 受験期にやってよかったことは？

小論文の答案を繰り返し添削してもらい、自分では気づきにくい表現や論理展開の課題を修正したことです。第三者の視点を取り入れることで、文章の質を高めることができました。

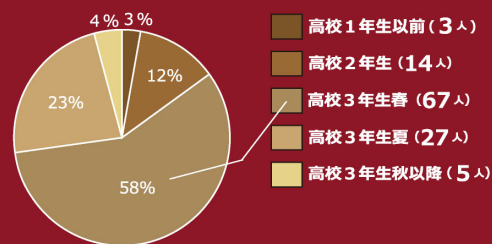
Q どう気分転換していた？

音楽を聴きながら短時間の散歩やランニングなどの軽い運動をしていました。また、好きなスポーツの試合の結果を少しだけ見てテンションを上げることで、勉強へのモチベーションを向上させていました。

Q 受験生へメッセージを！

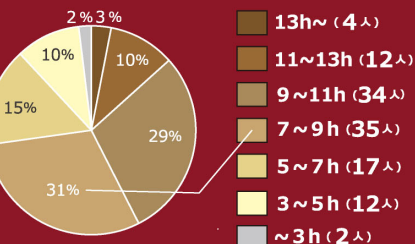
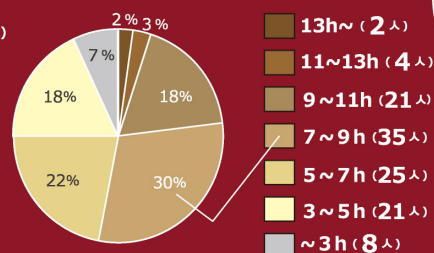
受験勉強は思うようにいかない時期もありますが、毎日の積み重ねは必ず力になります。自分の勉強時間には限界があると思うので、焦らず自分のペースを大切にしながら、無理をせずに最後まで諦めずに頑張ってください。

先輩に聞く！受験事情



受験勉強を始めた時期

夏休みの一日の勉強時間



冬休みの一日の勉強時間

CAMPUS LIFE

1 年生前期時間割

	月	火	水	木	金	土
1	University English 1B	健康・スポーツ科学演習	University English 1A			
2	情報リテラシー	初年次ゼミナール	人間文化概論 B			
3			倫理学入門	博物館概論		バイト
4	中国語基礎 1			中国語応用 1	美術史	バイト
5		文化構想学概論 A	中国語基礎 1			バイト
	バイト				バイト	バイト



廣田 優子

Hirota Yuko

1 年生
メディア部 Hijicho
手芸サークル Cotten
塾講師バイト

時間割を組む際、まずは必修である University English や初修外国語、情報科目などを埋め、その後で一般教養などを入れることになります。1 年生では、必修科目と同時に、興味のあるコースの入門的な授業である概論を受講します。まったく授業のない曜日（全休）を作ることもできたのですが、私は興味のある授業を優先しました。その結果、金曜日が 4 限しかない少し変な時間割になってしまいましたが……。そのほか、2 限か 3 限を空けておくと、食堂が空いているので昼食を優雅に取ることができます。



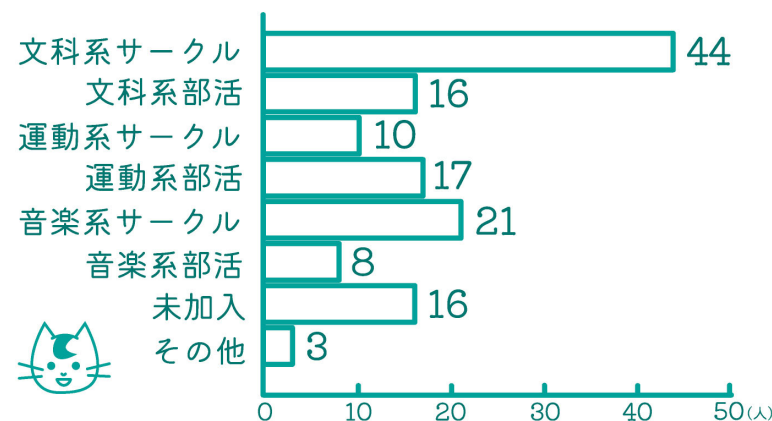
下宿 or 実家

■ 下宿 32 人
□ 実家から通学 83 人



文学部生 116 名にアンケート

加入サークル・部活



出身地

大阪府 48 人
大阪府以外の近畿府県 47 人
近畿圏以外の都道府県 21 人

資格・留学・進路ギャラリー



学芸員資格の取得を目指しています！

社会学コース 3 年生
たなか はるな
田中 晴菜さん

学芸員資格を取ろうと思ったきっかけは？

もともと、美術館が好きだったことがきっかけです。大学生になってから大学で学芸員資格を取得できることを知り、博物館についてより内側から学びたいという興味関心から、学芸員課程の履修を決めました。

資格取得のためのアドバイスをお願いします！

学芸員課程では、1、2 年生の間で履修できる授業が多くあります。3 年生以上で開講される実習に備えて、計画的に履修していくと良いかと思います。

教職資格を取ろうと思ったきっかけは？

中高での素敵な先生との出会いです。文学の面白さを伝えてくれる先生はもちろん、生徒の気持ちを想像し、些細な発言に思いやりが表れている先生、学ぶ姿勢をやめない先生方の背中をみて、憧れました。

教職資格を取ろうと考えている方達に一言！

教職の授業は多く、勉強がさらに忙しくなるということもたしかにあります。しかし、専門の授業以外の勉強をしたからこそ得られる別の視点、視野があるように思います。一緒に教職資格をとる勉強頑張りませんか？

中学校と高校の
国語教員免許も
取得予定です！

国語国文学コース 3 年生
おおびき ゆい
大引 優依さん



留学をしようと思ったきっかけは？

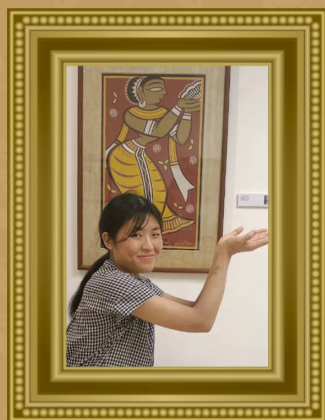
文化構想学科でマレーシアの多文化共生について学び、共生が実現する町の様子を実際に見たいと思ったことです。特に、政策に対する人々の感情が知りたくなり、現地の大学生と交流できるマラヤ大学へ留学しました。

留学を経て、自身の中で何か変化はありましたか？

留学後、海外の暮らしへの興味が高まりました。特に多文化共生について、卒論のテーマにできたらと思うようになりました。英語力向上と文化比較への意欲も強まり、現在は文化を英語で議論する授業を履修しています。

マレーシアのマラヤ大学
に 3 週間留学しました！

アジア文化コース 3 年生
いしい ちはる
石井 千晴さん

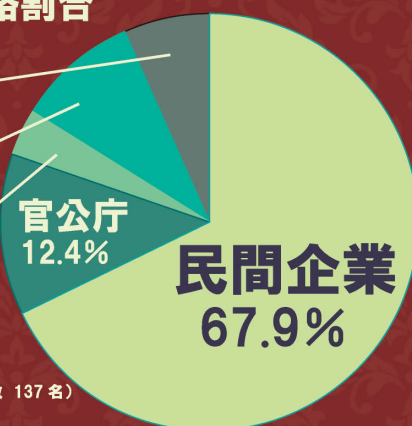


2025 年度卒業生進路割合

その他
6.6%

進学
9.5%

教員
3.6%



業種別割合

製造業：19%

公務：14%

卸売業・小売業：13%

情報通信業：13%

金融業・保険業：10%

教育・学習支援業：7%

学術研究・専門 / 技術サービス業：6%

運送業・郵便業：3%

不動産業・物品賃貸業：3%

生活関連サービス業・娯楽業：3%

建設業：2%

医療・福祉：2%

編集

皆さんが今お手持ちの当冊子「文学部案内」の企画・編集やその年度の卒業論文や支援機構の機関紙「フォーラム人文学」の刊行など、文学部にまつわる編集作業を行っています。

広報

主に公大文学部を目指す人や興味を持っている人を対象に、文学部生とのトーク企画などを行う「オープンキャンパス」を担当し、公大文学部の魅力を外部の方に発信しています。

進路支援

文学部・文学研究科生に特化した就職活動セミナーなど、文学部生の卒業後の進路に関するイベントを開催しています。本年度はそれに加え、大学院進学セミナーも開催する予定です！ 過去には、進路について考えるワークショップや、進路を決めた先輩とのフリートーク企画も開催していました。

教育支援

大学の授業開始前の履修相談会、2 年次からのコース選択に向けたコースガイダンス、新入生歓迎企画などを立案、運営しています。1 年生の学びの第一歩を上回生がサポートできればと思い、取り組んでいます。

研究支援

学部生・院生が主体となる研究活動を促進・サポートしています。勉強会、研究誌出版、教員との共同研究などに対する助成金支援や、優秀卒業論文賞・優秀修士論文賞、研究奨励賞の表彰を主に行っています。

文学部案内冊子の編集に参加しました

Q この企画に参加しようと思った
きっかけは？

きっかけは、授業前の宣伝です。もともとデザインと編集
校閲に興味があり、それらを実践的に経験できる学生団体
があることを 1 年生の初めに知り、挑戦してみたいと思い
参加しました。

Q この企画に参加してよかったと
思うことややりがいは何ですか？

一番良かったと思うのは、普段の学生生活ではなかなか得
られない知識や経験を積めたことです。メールの基本的な
マナーやデザインに関する知識を、先輩やプロの方から直
接学ぶことができました。また、タイトなスケジュールの
中で制作を進める中で、計画的に動く力が身につきました。
メンバーと相談を重ねながら制作できたことも、この企画
ならではの経験だったと思います。大変なこともたくさん
ありましたが、その分、完成したときや多くの方に読んで
いただけたときの達成感は何ものにも代えがたいものでし
た。興味がある方は、ぜひ教育促進支援機構に参加して
みてください！

国語国文学コース 3 年生
ふくずみ あやか
福住 彩果さん



出土した企画参加者の声

文学部・文学研究科

教育促進

支援機構

って
なあに？

2003 年、文学部創設 50 周年を
機に設立された「大阪公立大学文学
部・文学研究科教育促進支援機構」（通
称「支援機構」）とは、学生と教員が
協働しながら文学部・文学研究科に
関わる多様な「学び」を支援する団
体であり、その会員は文学部・文学
研究科に所属するすべての学生・教
員です。活動は有志の学生が主体と

なっている企画・運営されており、「大学の
学びとはいったいどのようなものなん
だろう？」ということをわかりやすく伝
えること、そして活動を通して自らの学
びを見つめ直すことを目的としています。
ここでは、それぞれの活動に合わせて役
割を担っている五つの班をご紹介します。